

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	52	シティセールス	三田市
アイデア名 (公開)	三田市民の就農促進		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	三田を知ってもらい隊		
チーム属性 (公開)	☐ 1. 市民によるチーム ☒ 2. 学生によるチーム ☐ 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	塘田捷人	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

○趣旨

- ・三田のことを知ってもらい、「三田愛」を持ってもらう。
→農家と市民をつなぎ、三田市を知ってもらう。

○目的

- ・三田市民に地元愛を持ってもらう。
- ・市民館の交流促進
- ・三田市の強みを伸ばす
- ・伝統を守っていく

第 1 ターゲット…三田市ニュータウンの主婦層

○具体内容

若い子育て世代の農業アルバイト促進

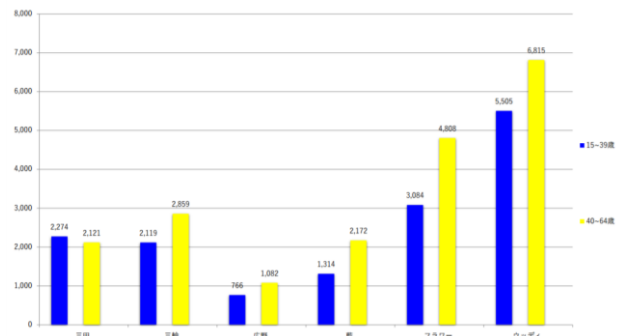
(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

○ニュータウンの若い女性（子育て世代）にターゲットを当てた理由

- ・三田市の人口はニュータウンに集まっている。（図1）
 - ・ニュータウンにはわずかながら女性の方が多く住んでいる。（図2）
 - ・男性は働いている人が多いので、子育て中の女性に焦点を当てる
 - ・三田市からの転出希望は20代、30代が最も多く、8割を占めている。（図3）
- 若い世代にこそ、三田市の良さを知ってもらい、定住してもらえるようにする。

図1 主要地区 女性の割合



○農業を選んだ理由

- ・三田市への転入理由としては家族との同居・近居の他、交通の利便性が高いことや自然環境、子育て環境の良さがあげられている。（図4）
 - ・しかしながら、農業や食に関する三田市の強みは市民にあまり浸透していない。（図4）
- 自然豊かな三田ならではの産業に触れ、三田市に対する理解と愛着を持ってもらう。

図2 ウッディタウンの年代別男女比

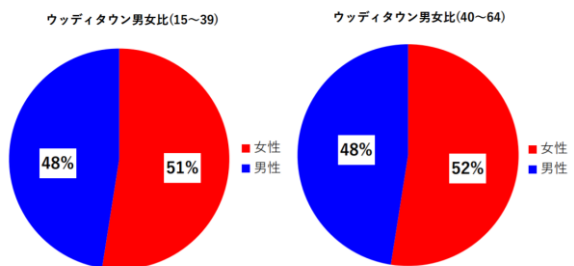
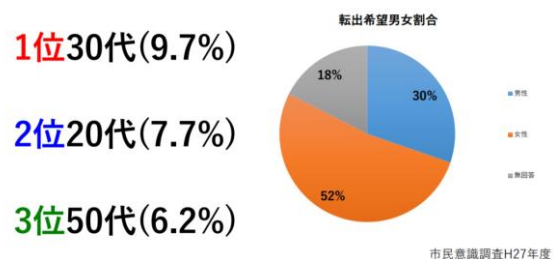


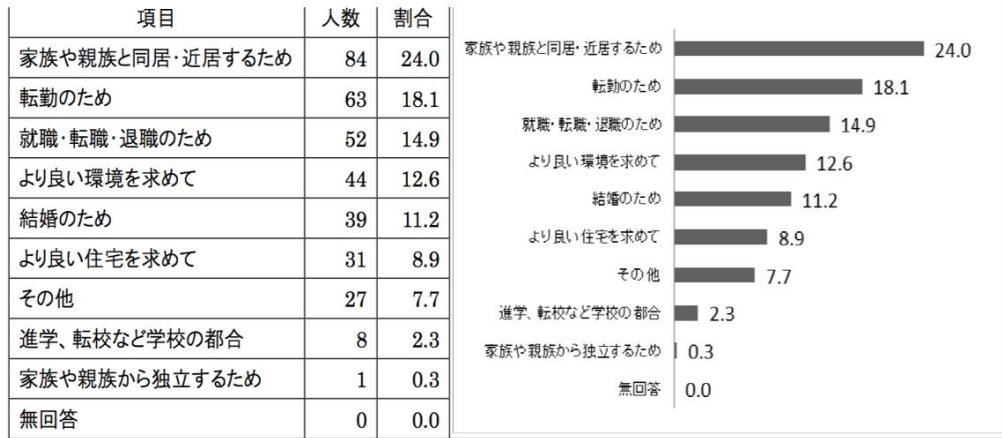
図3 三田市住民の転出希望



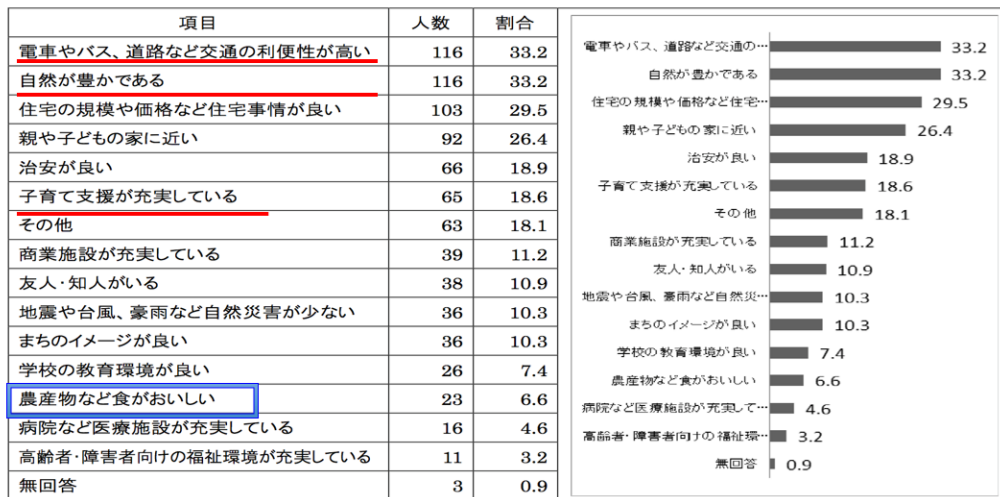
○若い子育て世代の方々にとっての利点

- ・自然豊かな場所ならではのバイトで
- ・シフトの調整が柔軟にできる。
- ・子どもと同伴出勤できるという利点がある。

図 4 三田市への転居理由



平成27年度企画財政部アンケート



平成27年度企画財政部アンケート

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

○農家の集合体を作る

- ・農家によって繁忙期が異なる＝1年を通して人を雇うのが難しい。働き続けるのが難しい
→農家の集合体を作ることによって一年を通して雇用できるようにする。

↓

○若い子育て世代に求人を出す

- ・雇用条件（時間や給与など）が自分に合うものを選んでもらえるようにする

↓

○アルバイトを行う

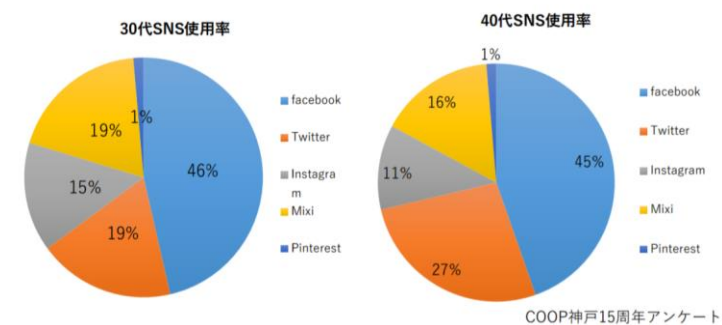
- ・休憩室の用意や子どもの遊び場、遊び相手の確保を行う

↓

○学生がP Rや体験後のアウトプットに関わる

- ・採れた野菜の販売やアルバイトのP Rに関わる

使用メディア（P R）



農家の集合体を作る

若い子育て世代に
求人を出す

アルバイトを
行う

学生がP Rや
体験後の
アウトプットに関わる

次につなげる

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

○アイデア実現までの課題

- ・農家別の繁忙期の把握
- ・アグリライフ相談所との差別化
- ・市が率先して若い子育て世代に就農促進を図っていく

○農業バイトが広まることで

- ・農家による家庭菜園講習を開くことができる。
- ・農家料理教室を開催することができる。
＝市民の食に関する関心が高まり、地産地消が活発になる。
- ・ニュータウンでの直売所の展開が見込まれる。
現在ニュータウンには三田産の野菜の直売所が無いため。
人手を増やすことでニュータウンにも直売所の展開が見込める。
- ・学生がP R活動に関わることで多世代との交流が生まれる。
＝学生にも三田の良さが伝わり、三田市に愛着が持てるようになる。